

巻頭言 力の支配から逃れるために

詩 アーカイヴ

雨澤佑太朗

詩

長濱よし野

小説 卵

花村渺

小説 エキ

仲山遥那

小説 いちじく温泉ファミリースパーランド

磯貝依里

小説 薄層から

環原望

小説 奇と家

門脇直人

評論 香迷宮―玉初堂『香りの象』―

田中汐音

執筆陣紹介

# 卷頭言 力の支配から逃れるために

私としては大がかりな同人誌を出すのは今回が初めての挑戦となる。

本書ははじめ『権威』という名前だった。創刊号には「男・教育・異性愛」と銘打った特集を載せようとも目論んでいた。しかし、権威に真向から立ち向かうには骨がいる。なぜなら権威の方が圧倒的に自分より強いからだ。

『アジール』という名前には、そんな権威に立ち向かうでなくオルタナティブな場や実践が結果として抵抗になるのではないかという思いを込めた。そうした創作活動や生活、場の保持の中で、私は自身が権威になる可能性に気づくこともできる。フェミニズムについて学ぶ中で、権威はあらゆる場所に潜んでいる（むしろ堂々と立っている）

る）ことに気づかされた。まなざし、ロマンティックな愛、言葉。すべてが権威を持つ。

シモーヌ・ヴェイユによれば、力を振るう側も振るわれる側も力の支配を受けているという。これから目の前の相手を刺し殺そうとする人も、刺されそうになって縮み上がっている人も同様に力の支配を受けている。権威もまた力の支配を受けている。

そうした支配から逃れるために、我々には言葉が必要だ。権威でないもの、ほとんど無いとされた人々を存在させるのも言葉だ。言葉は権威を持ちながらも、その虚構性によって権威に抑圧されてきたほとんど無いものの側を提示してくれる。虚構は実在を喚起し、オルタナティブな現実を作り上げる。

力の支配を逃れるべく、総勢八名による原稿が  
集まった。評論、詩、エッセイ、小説。どれも珠  
玉の作品ばかりだ。読者の皆様には、ぜひ巻末ま  
でじっくり目を通していただきたい。

二〇二二年 仲山遥那